

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」における 新森小路小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成25年4月24日（水）に6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域のみなさま等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

## 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2. 調査の対象

- 国・公・私立学校の小学校第6学年、中学校第3学年の原則として全児童生徒
- 新森小路小学校では、6年生 127人

## 3. 調査内容

### (1) 教科に関する調査

主として「知識」に関する問題 【国語A・算数A】	主として「活用」に関する問題 【国語B・算数B】
◇身につけておかなければ、後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容	◇知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
◇実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能など	◇様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価・改善する力など

### (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査

# 平成25年度「全国学力・学習状況調査」検証シート

新 森 小 路 小 学 校

児童数

123人

## 平均正答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	57.2	43.3	72.3	52.4
大阪市	59.1	46.6	75.9	56.4
全国	62.7	49.4	77.2	58.4

## 平均無解答率（％）

	国語A	国語B	算数A	算数B
学校	10.9	12.1	1.3	4.7
大阪市	11.5	14.2	1.9	6.5
全国	10.7	13.6	1.7	6.3

## 結果の概要

平均正答率を見ると、どの問題においても全国平均・大阪市平均より下回っている。この結果は、しっかりと受けとめる必要がある。さらに詳しく正答数の分布を全国平均や大阪市平均と比べると、国語A・算数Aでは、中低位層の割合が多い。また、国語B・算数Bでは、低位層の割合が多くなっている。一方、平均無解答率は、全国平均・大阪市平均に比べ、ほぼ低くなっている。児童質問紙調査でも、「国語(算数)の勉強は好きですか」の問いで、肯定的な回答をする児童の割合が、大阪市平均より高く、全国平均と同等の割合となっている。

## これまでの取組の成果と今後取り組むべき課題

無解答率が大阪市・全国平均より低いことから、児童には粘り強く問題を解こうとする態度が身についていることがわかる。また、児童質問紙調査の結果では、国語や算数の勉強が好きで、その授業内容もよく分かると感じている児童の割合が多いことから、児童の興味関心に基づき学習意欲を喚起する授業づくりや、個に応じた指導の充実を進めてきた成果は、一定あると考える。ただし、これらの関心・意欲・態度が正答率に反映でききれていないことは事実であり、その現実を重く受けとめて今後、取組の充実を次のようにして図りたい。

- 低学年時より、習得しておくべき基礎的・基本的事項の定着に努める。
- 中学年以上では、習熟度別少人数授業等でさらにその定着を図る。
- 目的に応じて資料を読み、自分の考えを表現する技能の定着に努める。
- わかったことなど事実と関連付けて、自分の考えを明確に書く技能の定着に努める。
- 学習したことを進んで生活や他の学習に活用しようとする態度を育てる。
- どの教科でも自分の考えを説明する場面を取り入れたり、根拠を明確にして説明する活動を取り入れたりすることで、言語力の育成を図る。
- 今後も、情報を保護者や地域住民に積極的に発信することで、さらに信頼を得ていく。

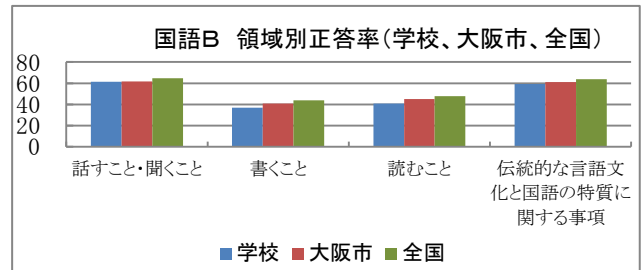
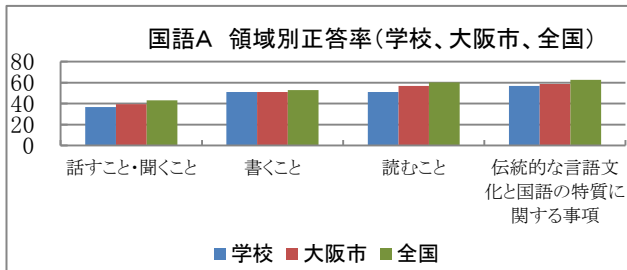
## 【国語】

### 結果の概要

平均正答率は、A・B問題とも全国・大阪市平均を下回っている。領域別に見ると、A問題では「書くこと」が大阪市平均とほぼ同等であるが、その他の領域は数ポイント下回っている。B問題では、「話すこと・聞くこと」で大阪市平均と同等であるが、その他は、数ポイント下回っている。一方、児童質問紙では、「国語の勉強が好きですか」の問いに肯定的な回答をした児童の割合が全国平均以上、「国語の授業の内容はよくわかりますか」の問いでも大阪市平均以上で全国平均にせまる割合になっている。

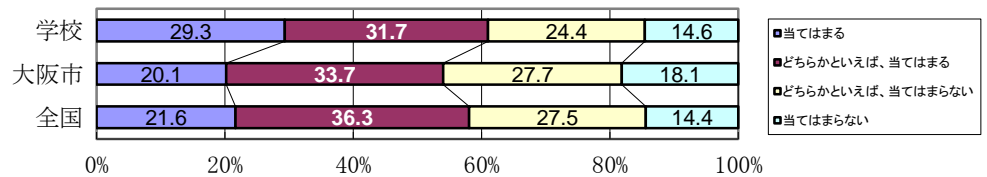
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	1	36.6	39.5	43.2
	書くこと	4	51.0	51.1	53.0
	読むこと	3	50.9	56.8	60.1
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	15	56.9	58.7	62.6

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	話すこと・聞くこと	3	61.5	61.7	64.8
	書くこと	4	37.0	41.0	43.8
	読むこと	4	40.7	45.1	47.9
	伝統的な言語文化と国語 の特質に関する事項	1	59.3	61.0	63.8

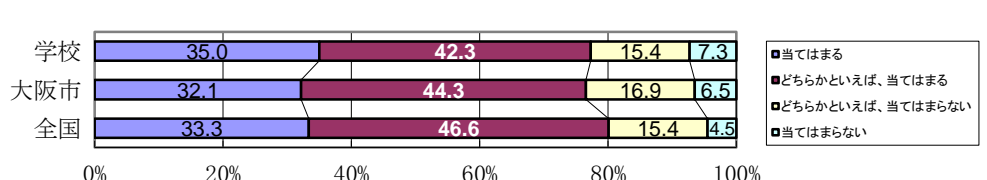


## 国語に関する「児童質問紙」

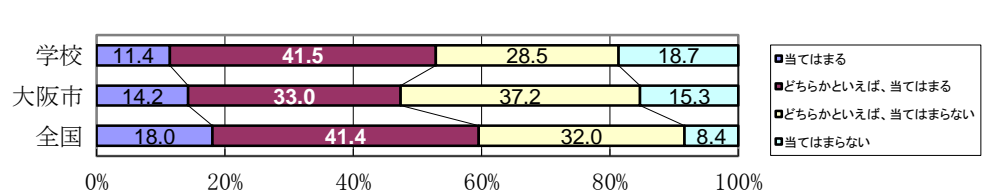
I 53 II 52 III 62
国語の勉強は好きですか



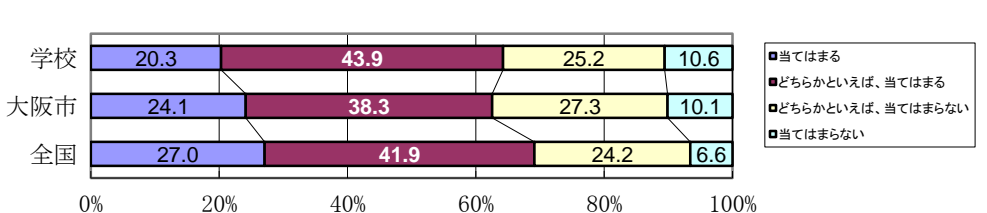
I 55 II 54 III 64
国語の授業の内容はよくわかりますか



I 58 II 57 III 67
国語の授業で目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりしていますか



I 60 II 59 III 69
国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いていますか



## 成果と課題

児童質問紙調査の結果からは、児童の国語科に関する関心・意欲は高く、児童にとってわかりやすく楽しい授業づくりができていると一定の評価ができる。しかし、この高い関心・意欲が正答率に反映できていないところに大きな課題がある。また、目的に応じて資料を読み自分の考えを表現する技能や考えの理由がわかるように表現しようとする態度の育成にも課題があることがわかる。

## 今後の取組

低学年時より、習得しておくべき基礎的・基本的事項の定着を努めるとともに、中学年以上では、習熟度別少人数授業等でさらに定着を図る。また、資料の読み方や引用の仕方を指導する際に、「なぜ資料を活用するのか」「何のために引用するのか」など目的を明確にする必要がある。さらに、わかったことなど事実と関連付けて自分の考えを明確に書くため、一定の条件にあわせて書かせる指導を進めていく。

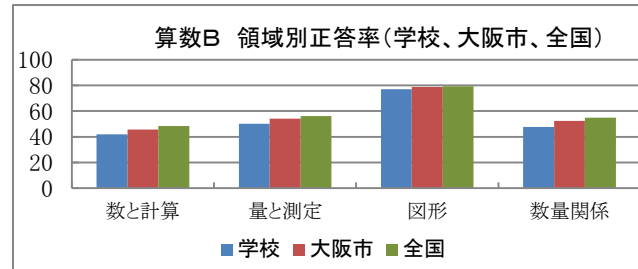
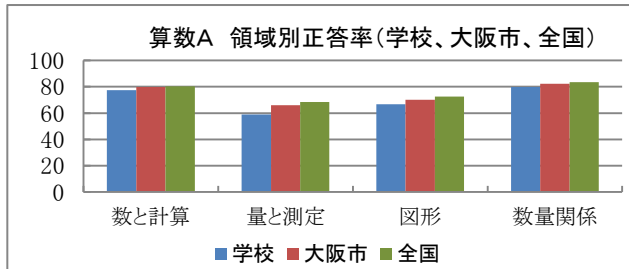
## 【算数】

### 結果の概要

A問題・B問題共に全国・大阪市平均を下回っている。また、どの領域でも全国・大阪市平均を下回っている。しかし、国語と同様に児童質問紙では、「算数の勉強が好きですか」、「算数の授業の内容はよくわかりますか」の問いで、肯定的な回答をした児童の割合が大阪市平均以上で、全国平均と同等になっている。ただし、「算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか」の問いでは、肯定的な回答が全国・大阪市より下回っている。

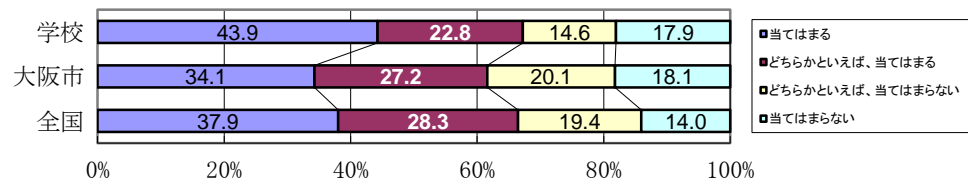
A 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	8	77.3	79.8	80.2
	量と測定	4	58.9	66.0	68.3
	図形	3	66.7	70.2	72.5
	数量関係	4	79.9	82.2	83.4

B 問 題			平均正答率(%)		
			学校	大阪市	全国
学習指導要領の 領域等	数と計算	3	41.8	45.7	48.3
	量と測定	7	50.2	54.1	56.0
	図形	3	77.0	78.8	79.3
	数量関係	7	47.7	52.4	54.9

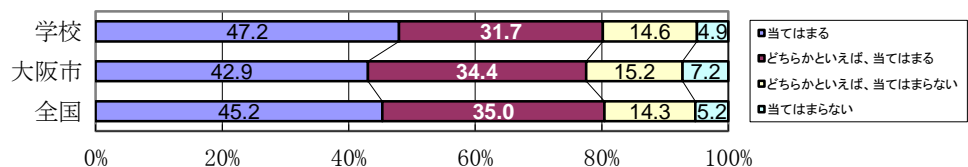


## 算数に関する「児童質問紙」

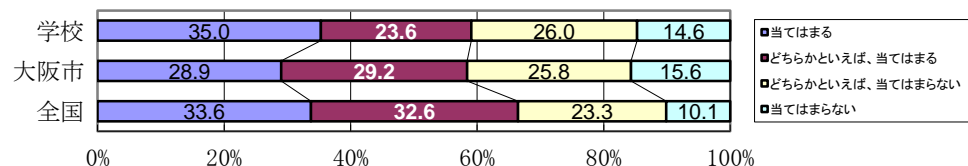
I 73 II 62 III 72
算数の勉強は好きですか



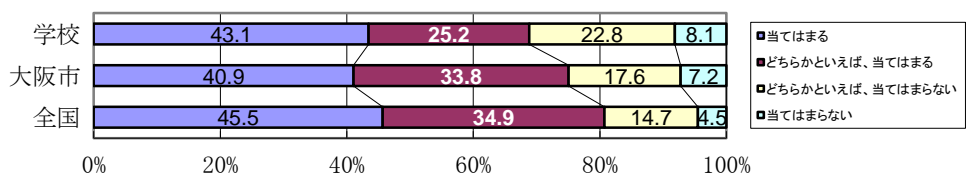
I 75 II 64 III 74
算数の授業の内容はよくわかりますか



I 78 II 67 III 77
算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか



I 81 II 70 III 80
算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしていますか



## 成果と課題

算数科においても、児童の関心・意欲は高く、楽しくわかりやすい授業づくりが一定できていると考える。しかし、国語科と同様に、児童の関心・意欲が、正答率に結びついていないことは大きな課題である。また、身に付けた知識や技能を生活や学習に活用することが十分でないことや、計算の意味を理解することに課題があることがわかる。

## 今後の取組

算数を学ぶことの楽しさや意義を実感できるようにするため、児童が目的意識をもって主体的に取り組む活動(算数的活動)となるよう指導していく。また、習熟度別少人数授業等で基礎的・基本的な知識や技能を確実に身につけられるように指導するとともに、根拠を明確にして説明する活動も重視したい。これらの活動を通して、学習したことを進んで生活や他の学習に活用しようとする態度を育てていきたい。

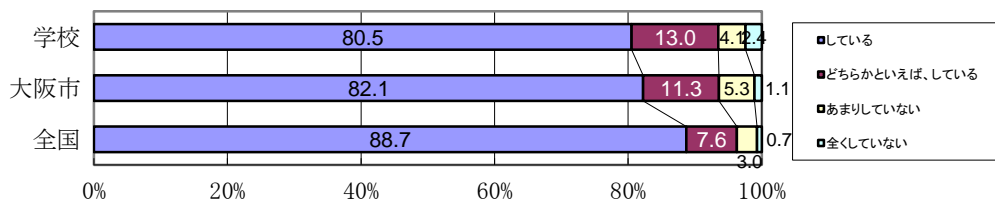
## 基本的生活習慣・自尊感情・規範意識

### 結果の概要

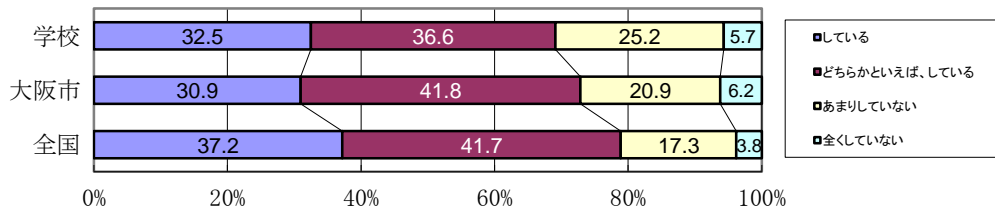
基本的生活習慣に関する「朝食の喫食」と「就寝時刻」の問いでは、大阪市・全国平均と比べると若干の課題があることがわかる。しかし、自尊感情や規範意識の問いでは、肯定的な回答をする児童の割合が、大阪市平均を上回り全国平均にせまっている。まだまだ不十分な点や個々の児童には課題があるが、これらについては順調な成長がうかがえる。この自尊感情・規範意識についての問いでは、ここ数年大阪市平均を上回り全国平均と同等かそれ以上の結果となっていることから、本学年の児童だけに留まらない全校的な傾向とすることができる。

質問 番号	質問事項
----------	------

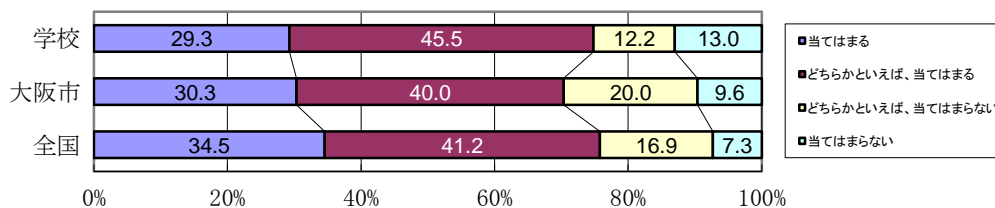
I 1	II 1	III 1
朝食を毎日食べていますか		



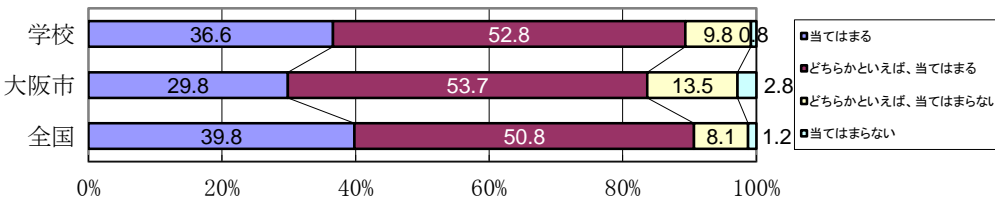
I 2	II 2	III 2
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか		



I 6	II 6	III 6
自分には、よいところがあると思いますか		



I 44	II 41	III 44
学校のきまりを守っていますか		



### 成果と課題

自尊感情や規範意識が一定育ってきていることは、「一人一人のよさを認めはぐむ指導」を学級経営や生活指導の重点に掲げて指導してきた成果だと考える。また、朝食の喫食率の向上については課題であると考え、「運営に関する計画」で本年度の重点目標としている。

### 今後の取組

自尊感情や規範意識の育成には、今後もさらなる充実をめざして取り組んでいきたい。基本的生活習慣の確立については、家庭との連携が欠かせない。本年度の目標にしている朝食の喫食率の向上にむけて、計画どおり食育を進めるとともに、PTAとも連携をして家庭への啓発を進めていきたい。



## 家庭学習・読書・学びの質の改善：言語力の育成

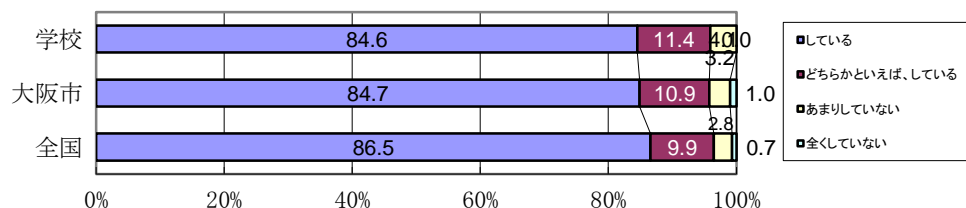
### 結果の概要

家庭学習については、家で学校の宿題はある程度できているものの、家で学校の授業の復習をする児童の割合が全国・大阪市平均を大きく下回っている。一方、読書に関しては、例年と同様に好きと答えた児童の割合が、全国・大阪市平均以上となっている。また、普段の授業での話し合い活動についての問いでも、行っていると肯定的な回答をした児童の割合は、大阪市平均以上で全国平均と同等となっている。さらに、授業で自分の考えを説明したり書いたりすることに関しても、難しいと思っている児童の割合は、大阪市・全国平均を下回っている。

### 質問 番号 質問事項

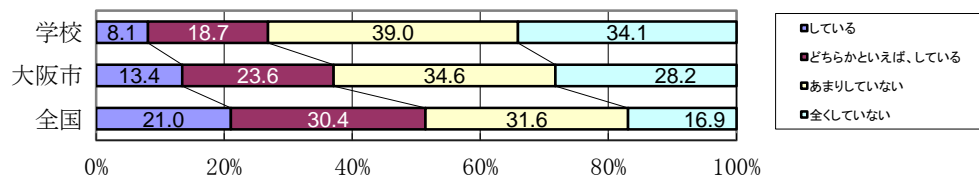
I 30 II 25 III 35

家で、学校の宿題をしていますか



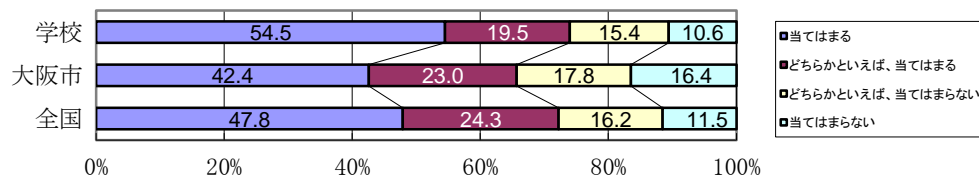
I 32 II 27 III 37

家で、学校の授業の復習をしていますか



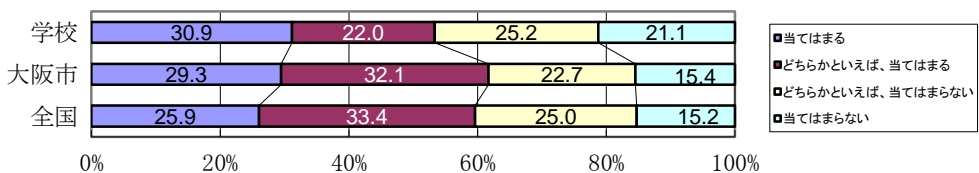
I 56 II 55 III 65

読書は好きですか



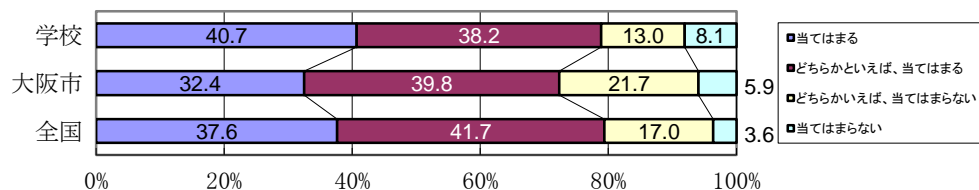
I 52 II 51 III 60

学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



I 50 II 48 III 56

普段の授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていると思いますか



### 成果と課題

家で学校の復習ができていない点については、その意義についての指導を含め、授業と関連付けた課題の出し方や学習したことを生活と結びつけようとする態度の育成が不十分であると考え。読書意欲や読書習慣については、ボランティアの協力も得ながら、長年読書に親しむ態度の育成に努めてきた成果が表れている。学びの質の改善と言語力の育成については、課題もあるにはあるが順調に高めることができていると考え。

### 今後の取組

授業のまとめの段階で学習したことを生活と結びつけて、児童がさらに深めたいと感じるようにするなど課題の出し方を工夫して、家で学校の授業の復習をする態度をはぐくんでいきたい。また、どの教科においても、自分の考えを説明する場面を取り入れるとともに、根拠を明確にして説明する活動を取り入れ言語力の育成を図っていききたい。